

五戸町立小・中学校統合計画（改定案）に対するパブリックコメント（意見募集）の結果

1 意見募集期間 令和7年1月30（木）～令和7年2月12日（水） 2週間

2 意見件数等 ・件数・・・ 3件
 ・意見数・・・12種

3 意見等及び町の考え方

No.	関係箇所	意見等	町の考え方
1-1	1 統合計画 (2) 小学校	川内地区「上市川小学校と切谷内小学校」の統合案について ・老朽化している現在の上市川小学校を統合後の数年間は、川内小学校として活用されるという案ですが、現在の川内中学校の校舎に移転先にはどうか。 ・川内中学校へ移転先にする事で、上市川学区と切谷内学区の子供達に通える場所でもある。 ・統合後は上市川小学校となると、切谷内学区から距離が遠く感じるのでは。	令和5年に策定した現行計画は、素案の段階では、ご意見と同様に、川内中学校を2小学校の統合場所として利用する想定で、「時期は中学校統合後速やかに行うものとする。」「統合場所は現在の川内中学校敷地内とし校舎等を整備する。」との内容でした。 この場合、①中学校3校を統合、②川内中学校が空いた後に校舎を新築、または現校舎を小学校仕様に改修、③切谷内小学校と上市川小学校を統合—という順番になりますが、この時の保護者・住民説明会や意見収集において、「それでは遅い」「切谷内小学校の複式学級の早期解消を希望する」といった意見や、校舎整備に関する巨額の財政負担を懸念する意見が寄せられました。 これらを踏まえ、最終的には、時期については「ただし、出来るだけ早く着手することを模索し目途がつき次第進める。」の文言を加え、中学校統合前であ

			っても小学校統合を進める内容となりました。中学校統合前に小学校を統合する場合、川内中学校はその時点では利用できないため、統合場所は明記せず、様々な候補地を検討する方針で、令和5年5月に現行計画を策定しました。 現行計画に基づき、川内地区の小学校の適正配置について検討するため、令和6年度に設置した川内地区小学校適正配置検討委員会においても、「切谷内小学校と上市川小学校の2校の統合は早期に進めるべき」との意見で一致しました。 2小学校の早期統合を目指し、かつ、校舎の老朽化度合の面でも川内中学校と上市川小学校は同程度、切谷内小学校は老朽化が著しいことから、今回の改定案では、上市川小学校を当面の統合場所としました。 ただし、川内中学校は上市川学区と切谷内学区の中心に位置しており、ご意見のとおり両地区から通いやすいことから、将来的に川内中学校へ移転することも選択肢の1つとして引き続き検討してまいります。 上市川小学校が切谷内学区から遠いのはご意見のとおりですので、通学手段、特に通学バスに関しては、十分な検討協議を重ね熟慮いたします。
--	--	--	---

No.	関係箇所	意見等	町の考え方
1-2	1 統合計画 (1) 中学校	3校ある中学校「五戸・倉石・川内」の統合案について ・五戸中学校敷地内に校舎を新築すると伺っておりますが、イメージ的にはこういった形で整備されるのか知りたい。 ・倉石や川内から通う子供達を考えれば、現在の五戸中学校だと通いづらい気がします。3校ある中学校をどうしても統合するとなれば、昔みたいに役場周辺に中学校を新築してはどうか。	中学校の統合場所については、令和3～5年に現行計画を策定する過程で、役場付近や五戸高校敷地内を含め検討しましたが、環境面や経費面などを踏まえ、全般的にみて現五戸中学校の方がより良いという判断になった経緯があります。 今回の計画改定にあたっては、中学校の統合計画については、令和5年5月に策定した内容から変更ありません。現行計画に沿って、まずは現五戸中学校を改修するか改築（解体及び新築）するかの判断材料とするため、校舎耐力度調査を令和5年度に行いました。その結果を踏まえ、校舎を改築する方針を決定し、令和6年度は建物の配置、間取り、整備イメージ等を決める校舎改築基本設計業務を現在実施中です。 整備イメージについては、基本設計業務が完了していないため未確定ではありますが、①一部の校舎棟を先行解体、②現在の中庭部分を中心に新校舎を建築、③新校舎完成、④引越し、開校後に残りの旧校舎を解体する方向性で検討を進めています。 五戸中学校が現在の場所に移転したのは昭和54年ですが、その前のご意見にあるように現在五戸町役場がある場所に五戸中学校がありました。現在、役場周辺には中学校を建設できる広さの町有地はなく、仮に役場周辺に新築する場合は、候補地選定、用

			地取得及び造成、設計のやり直しのための費用と期間が追加で必要になりますので、現行計画どおり進めるのが良いと考えております。 なお、川内や倉石からの通学に関しては、「3 統合基本方針 (2)通学手段について」にあるとおり、関係者の要望や意見を集約し、登下校時の安全面への対策も含め検討します。特に通学バスに関しては、十分な検討協議を重ね熟慮いたします。
--	--	--	---

No.	関係箇所	ご意見	町の考え方
1-3	1 統合計画 (1) 中学校 (2) 小学校	その他で小中学校の統合案と閉校した校舎の活用方法について ・南部町と同じく旧町村に小中学校を配置し、五戸中は単独で校舎を新築して、小中一貫校を倉石と川内にそれぞれ設置してはどうか。 ・計画案は小中学校3校で中学校1校としておりますが、五戸中を単独で新築した場合、倉石と川内に小中一貫校を配置した上で、五戸に小中1校ずつで倉石1校と川内1校となります。五戸町内の学校数が合わせて4校で倉石と川内に小中学校が残りますので、地域に学校があれば寂しさや何も感じさせることもなく、特に川内地区は八戸市やイオン下田にも近いことからインフラ整備さえすれば、将来人口減少対策につなげることが出来ると思います。 ・五戸中学校は校舎を新築すると決定した段階ですので、倉石地区と川内地区を三戸町や六戸町と同じく小中一貫校にすべきだと思います。 ・上市川小学校の校舎を解体し、宅地分譲地またはスーパーとドラックストアといった商業施設として跡地利用してはどうか。	小中一貫教育については、現行計画（令和5年策定）や、更にその前の「五戸町立小学校統合計画」（平成22年策定）の検討段階においても議論を重ねてまいりました。 メリットもあるものの、小中一貫校では中学校の少人数化が解消されません。少人数での指導は、人間関係が固定化されることから集団から得られる刺激や情報量に限りが生じがちで、そのことから互いに切磋琢磨し向上しようとする意欲やたくましさを育てる点で課題があるとされております。加えて、興味関心の高い部活動を選択できない、希望する自治的活動が制限される、男女のバランスを欠いた学級編制になるなども弊害となっております。小中一貫教育のメリット、デメリットを比較し検討を重ねた結果、総合的な見地から中学校3校を統合するという現行計画の内容に至っております。 中学校については、現行計画に沿って五戸、川内、倉石3地区の総生徒人数を想定した新校舎の設計を既に進めている段階ですので、今の時点で再度、小中一貫校の検討に戻ることは考えておりません。 ただし、ご意見にある「地域に学校がなくなることの寂しさ」を含め、地域における学校の果たす役割の重要性に鑑み、地域コミュニティの中核をなす小学校については五戸、川内、倉石の各地区に1校

			ずつ、当面３校体制を維持していくことを念頭に置くこととしております。 川内地区のインフラ整備による人口減少対策については、町としても重点施策の１つとしており、これまでに上市川団地を造成し宅地分譲したほか、現在、産地直売所建設事業を進めております。 上市川小学校については、当面、統合した川内小学校の校舎として使用する考えですが、統合により空き校舎となる各学校の利活用については、いただいたご意見も含め様々な可能性を検討してまいります。
--	--	--	--

No.	関係個所	ご意見	町の考え方
2-1	1 統合計画 (2) 小学校 ③ 統合場所	「今後、移転や改修を～」について、「川内中学校廃校後、すみやかに改修工事に着工できるよう改修計画を立案し、実行する」と明確にしてもらいたい。児童生徒の通学に関わる負担をいち早く解消願いたい。	川内中学校への移転を求めるご意見については重々承知しておりますが、現在準備を進めている統合中学校の改築に今後、多額の予算が想定されており、統合中学校開校後も旧校舎解体工事や外構工事等のための支出が続きます。そのため、川内中学校廃校後、すみやかに改修工事に着工することは、現段階では見通せない状況です。 川内中学校への移転については、将来的な選択肢の1つとして、児童のよりよい教育を第一に、財政面、児童数推移、地域コミュニティへの影響など多角的に考慮し、引き続き検討してまいります。 児童の通学に関わる負担軽減のため、通学手段、特に通学バスに関しては、十分な検討協議を重ね熟慮いたします。

No.	関係箇所	ご意見	町の考え方
2-2	3 統合基本方針 (1) 住民理解について	住民理解について、平日夕方に説明会を実施されていますが、仕事の関係で出席できません。事前に説明資料を配布し、土日に開催、web 配信するなど、多数の住民が参加できる会にするべきです。ごく一部の人が地区の未来を決めていると思われても仕方ありません。	「五戸町立小・中学校統合計画」改定案の作成に向けた保護者・住民説明会は、川内地区小学校適正配置検討委員会の検討結果を基にした方向性（素案）を叩き台として示し、様々なご意見を改定案作成に反映させる目的で令和6年11月に2会場で開催しました。 比較的多くの方が仕事を終えた後に参加できるであろう時間帯として午後6時30分開始としましたが、職業や勤務形態が多様化している現代においては、都合の合わない方がいることも承知しております。そのため、日にちを分けて2会場の開催としたほか、当事者となる切谷内小学校、上市川小学校及び川内こども園の保護者については、説明会に加え、学校・園を通じて進捗状況をお知らせする手紙を配布するとともに、アンケートを行って方向性（素案）を示しご意見を募りました。 説明会やアンケートで寄せられたご意見を踏まえて方向性（素案）を修正したことから、令和7年1月に再度説明会を2会場で開催し、改めてご意見を募ったところです。 また、今回のパブリックコメントもご意見をお寄せいただく機会の1つとなります。 各種説明会等につきましては、いただいたご意見も踏まえ、より多くの方に参加いただける形態を試

			行錯誤してまいります。
--	--	--	-------------

No.	関係箇所	ご意見	町の考え方
2-3	3 統合基本方針 (2) 通学手段について	通学手段について、外部委託ではなく、町直営のスクールバスを運行し、安全安心に繋げて頂きたい。 置き去りなどの事案が全国で散見されているので、全児童へGPS付発信機やキッズ携帯の配布、それが難しいのであれば、乗車、降車した旨を各保護者へメール配信するなど、対策を徹底してもらいたい。 バスの運行台数は早出・普通出の2台体制とし、帰宅時は30分に1本周回で運行して頂きたい。	町直営のスクールバスに安全安心を感じていただけるのは大変ありがたいことですが、町直営だから安全、外部委託だから安全ではない、ということはありません。五戸町ではこれまで町直営スクールバスを運行した実績はなく、運行ノウハウ、安全管理、イニシャルコスト、ランニングコスト等において外部委託の方がよりよいと考えます。 置き去りなどを含めた安全対策については、発注者として委託業者へ指導徹底してまいります。 小学校統合後の具体的なバス運行体制については、いただいたご意見も踏まえ、十分な検討協議を重ね熟慮いたします。
2-4	3 統合基本方針 (3) 教員の配置について	教員の配置について、統合へ向けて、小学校間の交流会を月1で良いので定期的で開催し、いち早くなじめるような行事を開催してはどうか。住民や教員に押し付けず、町が主体です。	学校間の交流については、統合を円滑に行うために必要と考えており、児童の交流事業を予定しております。具体的な内容、頻度等については、統合計画改定後に川内地区小学校統合準備委員会（仮称）を設置し、検討・調整してまいります。

No.	関係箇所	ご意見	町の考え方
2-5	3 統合基本方針 (4) 学校間の協議結果の尊重について (5) 学校の歴史や伝統の継承について	学校間の協議結果の尊重・歴史や伝統の継承について、どうしても統合先の上市川小学校が優位に位置してしまい、切谷内小学校の文化等はおろそかになってしまうと考えています。特に保護者間の軋轢を生みだすことは容易に想像できるため、町が積極的に関与すべきです。外部の専門家を相談役として配置し、学校間の文化と伝統の融合をまとめるべきです。当事者任せでは意見が纏まりません。第三者の関与が重要と考えます。	学校間の協議や歴史・伝統の継承については、統合計画改定後に川内地区小学校統合準備委員会（仮称）を設置し、検討・調整してまいります。検討委員会の委員構成は、保護者の代表、地域住民の代表のほか、第三者である有識者等を想定しております。
2-6		予算については、川内地区3校体制から1校体制になることにより多額の予算が浮くはずですが、それを全てとは言いませんが、大部分を“川内地区の子供たちのために活用”して下さい。 間違っても、他地区の事業に使わないように。川内地区の子供たちの予算です。 最後に、歴史が変わる良い機会なので「前例がない」「予算が無い」と言い「新しいことをしない」五戸町から、良さそうなことは「何でもやってみよう」の五戸町へ転換してみませんか。	施設数が減ることによって学校運営や建物の維持管理に関する費用は減額となります。一方、町の教育関連予算の中でみると、現在、川内・倉石地区を含めた町全体の子供たちのために統合中学校の建設準備を進めているところですが、中期的には建設費の町の自己資金分、長期的にも当面の間、建設費借入れ分（町債）の返済が減額分を上回ります。そのため、予算の節減効果が現れるまでには一定の年数を要すると見込まれます。 予算については、町政全体を見渡して適正に配分し、執行してまいります。

No.	関係箇所	ご意見	町の考え方
3-1		五戸町に住む一人として意見を申し上げます。 令和4年12月に周知のありました、五戸町教育委員会よる各地区の切谷内小学校おける説明会に参加させていただいた一人として改めて手元にある資料を再読してみました。 その結果、統合を進めるとして、本当に子供たちのためになるのかとの思いが強くなりました。 以下の理由からです。 1. 小学校統合の時期を早めたことに対する疑問 「地域住民から早期統合や校舎建設の見直しを求める意見が相次いだ」ためとし、検討委員会を立ち上げて検討したとのことで、その中に切谷内小学校の複式学級が常態化するからと意見があったようだが複式学級のメリットについて話し合われたのか。またそのことについて切谷内小学校の保護者、児童、先生を含めた全員での話し合いの場があったのか。私の聞き取り情報では無かったのではないのかと推測します。もしあったとのことであれば内容を知りたい。 物事を進めるにあたっては、良い点、悪い点を比較し、予算も含めた検討をするのが一般的ではないか。特に、教育に関しては経験のある教育委員会（小学校の実務担当の先生）の先導が不可欠ではないか	1. ご意見のとおり複式学級にはメリット、デメリットがあり、一概に劣るものではありませんが、多くの保護者から早期統合を望む声が寄せられたことを受け、現行計画は小学校統合を「出来るだけ早く着手することを模索し目途がつき次第進める」とし、目途がつけば中学校統合前でも小学校統合を進める内容となった経緯があります。 現行計画を策定する際の「第二次五戸町小中学校の教育振興に関する検討委員会」では、保護者や地域住民代表のほか、教職経験のある有識者や各小中学校長も委員に加わり、複式学級を含めた小規模校、大規模校、小中一貫教育などそれぞれのメリット、デメリットが話し合われました。 また、現行計画に沿って小学校統合を早期に進めるために設置した「川内地区小学校適正配置検討

		と考えるが、教育委員会の見解を知りたい。	委員会」においても、両小学校の実情を知る教職経験者、小規模校と大規模校両方の教職経験者が委員に加わり、話し合いが行われています。 切谷内小学校の保護者、児童、教師を含めた全員での話し合いの場は設けておりませんが、川内地区小学校適正配置検討委員会には、切谷内小学校の保護者の意見を聞ける立場にあるPTA会長及び各学年委員長が委員に加わっているほか、オブザーバーとして校長、教頭も参加しております。 複式学級のメリットは、児童一人ひとりに目が行き届くこと、その子に合った個別最適な指導ができること、先生がついていない場面でのガイド学習でリーダーが育つことなどが挙げられます。 一方、デメリットは、複式学級を持つ学校が少なくなっている中で複式学級の指導経験豊かなベテランの定年退職が進み、指導力のある教職員を確保するのが困難になってきていること、大人数で行うと効果がある体育の授業等が経験不足になることなどが挙げられます。 以前のように複式学級がたくさんあって、それに関わる研究も盛んに行われ、現場で携わる教職員同士が緊密に情報交換し勉強し合うことができた時代であれば、複式学級はある意味効果的な指導だったと考えますが、三戸郡の現状からすると単式学級の方が教育効果を得られると考えます。
--	--	-----------------------------	---

No.	関係箇所	ご意見	町の考え方
3-2		2. アンケート調査の結果に対する意見 ● 令和6年11月29日～令和6年12月4日（6日間）に実施された、川内地区の小学校統合に関するアンケート結果を見ると以下のことが疑念として残る。 ① 切谷内小と上市川小を統合し、場所を上市川小とする。ただし切谷内地区の児童については、上市川小のほか五戸小も選べる（学校選択制）とする選択が65%の結果がでたのに、なぜ学校選択制が廃止になったのかその経緯が釈然としない。 このアンケート結果について、保護者に開示説明したのか。もし説明していないのであれば今からでも遅くないと考える。	① 保護者を対象としたアンケートでは、切谷内地区の保護者を中心に学校選択制に賛成する回答が多かったものの、保護者・住民説明会で寄せられた意見及び保護者アンケートの自由記述では、川内地区の一体性、地域コミュニティの維持、切谷内地区の児童が五戸小学校に流出してしまうことで川内地区の統合小学校の児童数が減っていく懸念、子どもが友達同士で離れ離れになり辛い思いをさせてしまう可能性などの理由から、学校選択制に反対する意見もありました。また、切谷内だけ学校選択制とした場合、不公平感があるとの意見もありました。 説明会における様々な意見やアンケート結果を基に、川内地区小学校適正配置検討委員会で学校選択制のメリットとデメリットについて改めて話し合ったところ、学校選択制ではなく川内地区として1つにまとめたほうがよいとの意見が大勢を占めました。児童の教育を第一に考えつつ、地域コミュニティの中で重要な役割を果たす小学校を今後長く存続させ、川内地区を維持発展させて

		② アンケートの内容が、統合ありきの設問になっているように感じるが、教育委員会の考えを聞きたい。 ③ アンケート調査のその他の意見を見ると、全体的に困惑している保護者が多いのではないか。この意見が無駄にしないためにもこれまでしてきたことを整理し、前へすすんでもよいのではないか。特に、切谷内小学校の保護者への配慮は必要ではないか。	いくための総合的な判断として、素案を修正しました。 ② 令和5年5月策定の現行計画において、切谷内小学校と上市川小学校を統合する方針は決定済で、今回の改定は、時期や場所など具体的な統合方法を計画に盛り込むためのものです。このため、統合を前提としたアンケートを行いました。 ③ これまで説明会、アンケート、パブリックコメントで寄せられた様々なご意見を参考に、児童のよりよい教育を第一に、地域コミュニティへの影響なども多角的に考慮し、小学校統合を進めてまいります。切谷内小学校の児童や保護者への配慮は、ご意見のとおり必要と考えます。
--	--	---	---

No.	関係箇所	ご意見	町の考え方
3-3		3. 意見の趣旨 小学校統合をこのまま進めるのであれば、切谷内小学校の児童の不安軽減のため、以下のことを考慮していただきたい。 ① 現切谷内小学校教諭を三名以上配置してもらいたい。 ② スクールバスの具体的運用計画の開示。(運行時間、運行経路、運行時の付き添いの有無、使用する児童の金銭的負担の有無、交通事故発生時の補償など)	① 町立学校の教職員人事については青森県教育委員会の所管となりますが、切谷内小学校児童への配慮について町教育委員会からも強く要望してまいります。 ② 統合小学校におけるスクールバスについては、計画改定後に設置する川内地区小学校統合準備委員会(仮称)で検討した上でスクールバス担当課(教育課)、コミュニティバス担当課(総合政策課)及び委託業者と調整してまいります。 なお、現行のスクールバス運行時間、運行経路については五戸町コミュニティバスの時刻表の中に「学校対応便」として掲載しており、年1回自治会を通じて毎戸配布しているほか、町ホームページからも閲覧、ダウンロードできます。また、スクールバスは学校行事等に伴う登下校時刻の変更に対応した運行を行っており、運行時刻の変更をホームページに随時「学校対応便の運行情報」として掲載しております。 運行時の付き添いの有無については、バスへの同

		③ 上市川小学校における授業の進め方をどうするかの説明、開示。(各学年を一人の先生で授業するのか、補助の先生がつくのか) ④ 統合による、児童のいじめ、登校拒否などの具体的対策の開示。	乗は各学校とも行っておりませんが、バスを利用する児童生徒が下校する際、乗車するまでの間、教職員がバス停で付き添いを行っております。 金銭的負担については、中学生以下はスクールバスはもとより、五戸町コミュニティバスについても無料で利用いただけます。 交通事故発生時の補償については、町と委託業者のスクールバス運行業務委託契約に基づき、基本的には委託業者が加入する保険での対応となります。 ③ 小学校では、1年生については2年生と合わせ8人以下の場合複式学級となり、1年生を除く連続する2学年については16人以下の場合複式学級となりますが、上市川小学校の児童数の今後の見通しでは、当面、複式学級とはならず、基本的に各学年を1人の教職員が担任する見込みです。なお、切谷内小学校と同様に、教職員を補助する特別支援教育支援員を支援が必要な学級に配置しています。 ④ いじめ防止は、学校統合に関わらず重要課題と考えております。五戸町いじめ防止基本方針を策定し、町ホームページに掲載しております。 不登校支援については、各学校、教育委員会、健康増進課（保健師）、福祉課、児童相談所、病院、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー
--	--	--	---

		⑤ 上市川小学校の児童と切谷内小学校児童の交流が今まであったのか。もしないのであれば、シミュレーションとして実施してみるべきではないか。そのことにより、児童のいじめ、登校拒否の発生を抑制する対策が早期にできるのではないか。 統合時期だけではなく①～⑤を含めた、全体計画を立案して保護者に開示すべきではないか。特に、環境が大きく変わる切谷内小学校の児童、保護者に開示説明する必要があると思慮します。 統合による児童のいじめ、登校拒否児童がでないように重ねてお願いします。 〈参考にした文献〉 ● 文部科学省 平成27年1月27日付けの「効率小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する	一等が個々のケースに応じて連携し、電話や面談による相談、家庭訪問、放課後登校、別室登校、リモート授業参加など各家庭及び学校の状況に応じた柔軟な対応を行っております。 ⑤ 切谷内小学校と上市川小学校は今までも修学旅行の合同実施など交流を行ってきました。 統合する小学校間における児童の交流事業については、統合に伴う児童のストレスを緩和し統合を円滑に行うため、ひいてはご意見にあるようにいじめ、不登校の発生を抑制するために必要と考えており、実施を予定しております。具体的な内容については、統合計画改定後に川内地区小学校統合準備委員会（仮称）を設置し、検討・調整してまいります。 統合計画は学校数や統合時期、統合場所等の大枠を定めるものですが、実際に学校が統合するまでには、ご意見にある項目も含め、具体的かつ詳細な事項を1つ1つ検討調整していく必要があります。それらは主に、計画改定後に設置する川内地区小学校統合準備委員会（仮称）で検討し、その検討結果を踏まえて決定していくことになります。 今後、具体的な方針が決まった詳細事項については順次、周知してまいります。
--	--	--	--

		る手引き」 ●国立教育政策研究所紀要 第149集 令和2年3月付けの「小学校複式学級による学力スコアへの影響」小林淑恵、今村聡子の研究 小林淑恵～文部科学省総合教育政策局調査企画課 学力調査室専門職 今村聡子～文部科学省教育政策局政策課主任教育 企画調整官	
--	--	--	--